



しゃきょう 2022年4月号198号 社協だより

●発行 社会福祉法人三宅島社会福祉協議会 〒100-1211 三宅島三宅村坪田 3053 電話 04994-8-5888



4月2日～8日は発達障がい啓発週間です！

2007年（平成19年）に国連が制定した「世界自閉症啓発デー」World Autism Awareness Dayは、毎年4月2日、日本ではその日から1週間を「発達障害週間」として8日までを集中啓発を行います。国連では自閉症（Autism）としていますが、厚労省は発達障害（developmental）を使用しているのは、訳語である「自閉」から「常に自分の殻に閉じこもっている」と誤解を生じることがあるからです。

Autism はギリシャ語の「自己（autós）」が語源です。自動車のオートマチック、など自律的、自己完結的に動く、といった意味になります。これを日本語に訳す際「自」に加えて「閉」を当てました。「閉」は外部に対して「閉じる」ことですから、転じて社会を拒絶する、自分の殻に閉じこもる、ひきこもるといった意味、印象が付加されてしまいます。これでは自閉の方々の実情や多様性からはずれたイメージを生み出してしまいます。なので、日本では「自閉」という言葉ではなく、「アスペルガー」や、最近では「発達障害」の名称が使われるようになりました。現在多くの国々では「発達障害」も含めASD（Autism Spectrum Disorder）「自閉症スペクトラム」と統一し、診断基準も「社会的コミュニケーションの障害」と「こだわり（感覚過敏・鈍麻含む）」の2つだけです。

しかしこの2つに集約されますが、生きずらさを感じている人は10人に1人と言われるほどたくさんいます。物忘れが多い、整理が苦手、人付き合いが下手、読み書きが著しく苦手、人によって色々と違いますが、同時に秀でた能力をもっている人もいます。そして子供時代よりも大人になってからのの方が、うつ病等問題が顕在化しやすいとも言われます。

私たちは言葉によって固定的なイメージを持ちやすいのですが、自閉症が診断されてからまだ半世紀、分からないこともたくさんあり、時代の変化とともに捉え方や診断に対する考え方にも大きな変化が起きています。近年、自閉を「障がい」ではなく「脳の多様性」として捉える社会運動が北米や欧州を中心に広がっています。「治療」するのではなく、Autism（自閉）という「多様性」を持つ個人が十分に社会参加できるように環境や制度を整えることは、すべての人々にとっても生きやすい環境であることを忘れてはいけません。

三宅島社会福祉協議会 事務局長 齊藤央



この度3月末日をもって三宅島社会福祉協議会を退職することになりました。2014年1月1日に赴任して以来7年3ヵ月、三宅島のみなさんのお役に立てるよう、福祉の現場から活動を行ってきました。私は1964年の東京オリンピックの年に生まれ、一時期中国の大連市にある日本人学校で教員をしていました。そこで結婚し、長女を授かり、日本へ戻り15年ほど障がい者福祉に携わっていた時、中国で生まれた長女が14歳の若さで天国へいってしまいました。仕事にも身が入らない日々を過ごしていた時に読んだ本をきっかけに、さいわい（幸い）とは人の役に立つこと。こんな私でも誰かの役に立てることで幸せになれる。そんな思いで島にやってまいりました。定年までの10年を三宅島の地域福祉に貢献できればと。残すところあと3年でしたが、介護する事情ができ、急遽島を離れることにいたしました。

今年の日中国交正常化から50年です。50年前、当時の首相周恩来は条約締結に尽力した日本人に「水を飲む時、井戸を掘った人のことを忘れない」と伝えたそうです。三宅島での実践を重ねる中で想起したのが、この周恩来の言葉です。三宅島社会福祉協議会は私が赴任する以前から半世紀にわたる活動を行ってきた組織です。多くの方々の支え、島民のみなさまの応援を受け、役員のみなさまの志、先達に支えられてきた社協であります。尽力くださったみなさん、支えてきた職員の方々に感謝し、常に思いを寄せ活動してまいりました。社協の使命は最大多数の最大幸福を目指すことではありません。一人ひとりの暮らしを、思いを、大切にしながら支えていくことです。その使命には、多くの方々が積み上げてきた「思い」が重なっています。

都市部のようなたくさんの資源（サービス）が無い三宅島では、福祉の実践は多くの方とつながらないと成り立ちません。とても大切な経験をいただきました。心より感謝申し上げます。

コロナも戦争も収束はいまだ見えません。どうか1日も早くみなさんが安寧な生活を送れます事を祈っております。

7年の島暮らしも終わりとなります。刺身、苦竹、露のとう、タラの芽にパッション、新鮮な島野菜、てっぱつに台風、わが家への落雷、ウミガメとの遭遇、透明な海にサンゴ、イルカとクジラ、雄山一、聖火ランナー…思い出は尽きません。なによりも島のみなさんとの出会いは大切な思い出です。ありがとうございました。

飲水不忘掘井人

7年3か月お疲れさまでした！あっという間の7年だったように感じます。時にはぶつかり、時には笑い、時には涙したこと、今となってはいい思い出です。色々な世界を見せてくれて、局長は自然体で生きることの大切さをいつも教えてくれました。「どんなことでも大切なのはキモチでしょ？」と言っていたのを何かあるたびに想います。ただただ、ただただ、ただただ、私たちは寂しいです。局長の町にも局長の助けが必要な人がたくさんいます。その人たちのために、寂しい気持ちを精一杯抑えて、「いってらっしゃい」って言いたいです。7年3か月、本当にありがとうございました。局長、いってらっしゃい。また、お会いできる日まで…。

三宅島社協職員一同

寄付金のお知らせ

下記の方から三宅島社会福祉協議会へご寄付頂きましたのでご報告いたします。

佐久間昭博さまより 亡母 由起子さまの香料より 組織運営事業のために
福祉振興のため、大切に使用させていただきます。ご厚志誠にありがとうございます。





開所日時:月・水・木(10:00~15:00)

三宅村地域活動支援センター「いぶき」は障がいのある方の働く作業場と楽しく過ごせる場所です!

4月のいぶき活動

緑化活動 4・11・18・25日(毎月曜日)

外出支援 21日(木曜日)

冬の荒天が続いて春が待ち遠しい日が続く中、1日中風もやみ、晴天の日がありました。そんな日には近くの海沿いに行き、運動も兼ねて、散歩に出かけています。体重を落とす、1日5,000歩など皆さんそれぞれの健康のために目標があり、その目標達成に向けてお話ししながら楽しく歩かれています。これからの季節は外出もしやすくなるため、機会が増える予定です。



ちけん通信

Vol.36 「ちけん」の相談員ってどんな人?

Q.

「ちけん」の相談員ってどういう人が
やっているんですか?

そうだ!

社協の地権に

相談して

みよう!



ご相談ありがとうございます!ちけん担当のヤナガワです。「ちけん」の相談員(専門員)は社会福祉士もしくは精神保健福祉士の資格を持った職員が担当しており、専門員とともに定期訪問を行う支援員も東京都社会福祉協議会が行っている研修を受けた上で活動しております。日頃いただいているご相談につきましては守秘義務厳守の上で対応させていただいております。

「ちけん」ではお困りごとやご相談に合わせた形でサポートさせていただいておりますのでお気軽にご相談ください!



「地権(ちけん)」では、判断能力に心配がある方を対象として、福祉サービスの利用に関する相談に応じ、助言や情報提供を行う事で本人による選択や契約を支援する事業です。

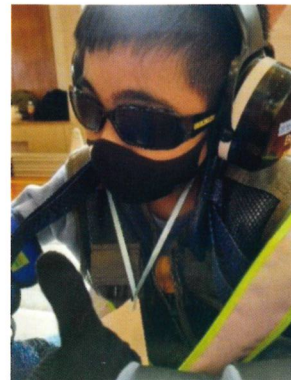


み や け し ょ う が っ こ う ね ん せ い み な い っ し ょ かん が
 三宅小学校4年生の皆さんと「ボランティア」を一緒に考えました！



が つ に ち み や け し ょ う が っ こ う ね ん せ い い っ し ょ
 2月18日に三宅小学校4年生のみなさんと一緒に「ボランティア」について考えました。「ボランティアってなんだろう?」というテーマでお話をさせていただきましたが4年生のみなさんは、わたしたちが思っているよりも、「ボランティア」に対する理解度が高く、私たち社協の職員

うれ おどろ み ぞ が
 は嬉しい驚きでした。身近なボランティアとして「高齢者」に関することがあり、
 こ う れ い し ゃ せ っ
 「高齢者」と接するために、どのようにしたらいいのか考えてもらう為、今回
 こ う れ い し ゃ ぎ じ たい けん お こ な ひ と く み ぎ じ たい けん
 「高齢者疑似体験」を行いました。ふたり一組になってひとりは疑似体験セットを
 み つ かい じ ょ こ う な い さ ん さ く く る ま たい けん た あ たい けん よ
 身に着け、ひとりは介助をして、「校内散策」「車いす体験」「立ち上がり体験」「読
 か たい けん お こ な こ う な い さ ん さ く かい だ ん の ぼ く だ だ ん さ ば し ょ
 み書き体験」を行いました。「校内散策」では階段の上り下りや、段差のある場所



あ る く る ま たい けん く る ま と あ つ か か た ち い つ く
 を歩きました。「車いす体験」では、車いすの取り扱い方や、小さなコースを作り、
 あ ん ぜん かい じ ょ ほ う ほ う たい けん た あ たい けん し ゃ き ょ う
 安全に介助する方法を体験してもらいました。「立ち上がり体験」では、社協
 で ん だ ー ず た あ ほ じ ゃ き ぐ も じ っ さい し ゃ き ょ う かい ごと は なら
 の電動ベッドと立ち上がり補助器具を持っていき、実際に社協で介護士として働
 し ゃ き ょ う かい じ ょ たい けん よ か たい けん
 いている職員に介助してもらった体験してもらいました。「読み書き体験」では、
 よ う い き に へ り き に へ り
 こちらで用意したアンケートへの記入をしてもらいました。今回の「高齢者
 ぎ じ たい けん こ う れ い し ゃ か た かい じ ょ ら く
 疑似体験」をしてもらい、どうやったら高齢者の方が介助してもらおうと楽になる

のかを、自分の身をもって経験してもらえたと思います。この経験がいつか皆さんが「ボランティア」
 お も と き じ し ん せ な か お ざ い り ょ う う れ
 をやろうと思った時に「自信」となってみなさんの背中を押してくれる材料となれば嬉しいです。どんなことでも果敢にチャレンジしようとする姿勢を見て、きっと、皆さんならどんなボランティアでもできると思いました。優しく、賢く、勇敢な皆さんの今後の活躍を期待しています！もし、私たち社協の職員がお手伝いできることがあれば、声をかけてください！いくらでも協力します！昨年に引き続き、今年も「高齢者疑似体験」の機会をいただき、本当にありがとうございました！

み や け し ょ う が っ こ う こ う ち ょ う せ ん せ い ふ く こ う ち ょ う せ ん せ い た ん に ん あ お き せ ん せ い き ゃ う り ゃ く せ ん せ い が た
 三宅小学校の校長先生、副校長先生、担任の青木先生、ご協力いただいた先生方、
 い っ し ょ かん が み や け し ょ う が っ こ う ね ん せ い み な す て き
 そして、「ボランティア」を一緒に考えてくれた三宅小学校の4年生の皆さん、素敵
 じ かん ね ん せ い み な し ゃ き ょ う あ そ き
 な時間をありがとうございました。4年生の皆さん、社協にも遊びに来てくださ
 な に こ ま あ そ き か お み き
 い。何か困ったことがあってもなくても、遊びに来てください。顔だけ見せに来て
 わ た し う れ し ゃ き ょ う し ゃ き ょ う し ゃ き ょ う
 てください、私たちはとっても嬉しいです！社協職員、みんなで待ってます！

